

モモジョイント V 字トレリス樹形における 10 年生までの生産性

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—モモ—作型・栽培型

2 担当者名

高橋堯之、佐久間宣昭、尾形亜希子

3 要旨

「あかつき」におけるモモジョイント V 字トレリス樹形（以下「JV」という。）は、慣行（開心自然形）と比較して、早期多収性があり、樹齢 10 年生になる 2023 年には 10a 当たり 3,000 kg 以上の収量が確保できた。JV の果実品質は慣行とほぼ同等であるが、収穫期が遅くなる。

- (1) JV の収量は樹間 1.5m（以下「JV150」という。）、樹間 2m（以下「JV200」という。）ともに定植 4 年目（2019 年）から 10a 当たり約 3,000 kg となり、慣行と比較して早期多収性がある。以降もおおむね 10a 当たり約 3,000 kg 以上を維持している（図 1）。
- (2) JV の過去 3 カ年の収穫盛期は慣行と比較して 5～6 日遅い（表 1）。
- (3) 果実重は慣行と比較して小さい傾向にあるが、その他の果実品質も含めて有意な差はない（表 1）。

表 1 モモJVの収穫期と果実品質（2021～2023年の平均値）

樹形	収穫盛 (月/日)	果実重 (g)	着色 指数	硬度 (kg)	糖度 (°Brix)
JV150	8/1	277.9	5.0	2.31	12.5
JV200	8/2	275.6	4.9	2.32	12.4
開心自然形（対照）	7/27	319.5	4.9	2.33	12.6

注) 着色指数は果実の果頂部から赤道部までの着色を割合により 1～5 段階で評価したもの

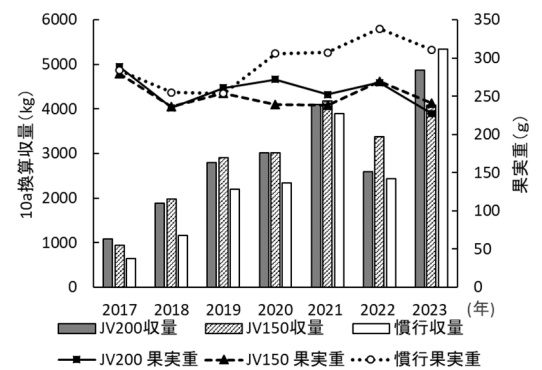


図 1 モモ JV 樹形の収量推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 29～令和 7 年度
- (2) 研究課題名 スマート農業プロセスイノベーション推進事業〔農林水産分野の先端技術展開事業(JPJ009997)〕（令和 3～7 年度）、果樹のジョイント栽培等新技術の導入による革新的栽培技術体系の確立〔革新的技術開発・緊急展開事業〕（平成 29～令和 2 年度）

5 主な参考文献・資料

- (1) 三田村ら、モモジョイント V 字トレリス栽培は多収で栽培性に優れる 令和 2 年度実用化技術情報